

Ⅱ 住生活総合調査結果の要約

Ⅱ 住生活総合調査結果の要約

【現在のすまいに対する感じ方～住宅及び住環境に対する評価】

- ・ 全世帯では、「住宅及び住宅のまわりの環境に対する総合的な満足度」「住宅に対する満足度」における不満率は過去 7 回の調査で回を追うごとに減少。「住宅のまわりの環境に対する満足度」も毎回減少しているが前回からはほぼ横ばい。
⇒P1-15～1-17
- ・ 住宅の各要素に対する評価では「高齢者などへの配慮」の不満率が高く、住宅のまわりの環境の各要素に対する評価では「近隣のシェアオフィスなど自宅や職場以外で仕事のできる環境」の不満率が高い。
⇒P1-18～1-21
- ・ 住宅に対する重要度と不満度との関係において、重要度も不満度も高い項目は、全世帯では「地震に対する安全性」「防犯性」「収納の多さ、使い勝手」、子育て世帯では「収納の多さ、使い勝手」、高齢者世帯では「地震に対する安全性」「防犯性」「高齢者への配慮」。住宅のまわりの環境に対する重要度と不満度との関係において重要度も不満度も高い項目は、全世帯、子育て世代ではみられず、高齢者世帯では「日常の買物などの利便」「災害時の避難のしやすさ」
⇒P1-28～1-33

【住宅の住み替え・改善の意向】

- ・ 持ち家では「住み替え意向はない」割合が 77.0%、借家では「住み替え意向がある」割合が 46.2%と高い。
⇒P1-34
- ・ 地域別にみると持ち家ではいずれの地域でも「住み替え意向はない」割合が高いが、借家は「横浜地域」「横須賀三浦地域」で「住み替え意向がある」割合が高く、「川崎地域」「県西地域」で「住み替え意向はない」割合が高い。
⇒P1-36、1-38
- ・ 家族構成別には、持ち家ではいずれの家族構成でも「住み替え意向はない」割合が高い。借家では高齢者世帯では「住み替え意向はない」が、子育て世帯や非高齢者世帯では「住み替え意向がある」割合が高い。
⇒P1-45、1-47

【今後の住居形態と相続】

- ・ 今後の住居形態の変化としては、「持ち家から持ち家」に住み替えたい割合が最も高い。
⇒P1-50
- ・ 相続する可能性のある住宅の活用意向は、「県西地域」「横須賀三浦地域」で「住む、または建替えて住む」割合が高く、「横浜地域」で「親族以外に売却する」の割合が高い。
⇒P1-51